

# ザ・コトパンジャン

阪本まもる・現地からの報告トーク&スライドショー



photo : 阪本 まもる



8月1日(日)大阪、北の中崎町「天人」で、夜7時頃から始めたスライドショー。6月23日から翌月7日まで撮り続けた1000カットを超える写真の中から、今、日本という国がODA(政府開発援助)の名の下に、インドネシア・スマトラ島コトパンジャンエリアで行っている「静かなる殺戮」をまずは見てほしいと思ったからです。

ダムの建設による被害を訴える現地の人々は、第1号原告のサムスリさんをはじめ8396人。ODAそのものが裁判にかけられるのは、はじめてのことです。老人も、産まれたての赤ん坊も合わせて23000人ほどのコトパンジャンエリア、15ヵ村でいったい真の受益者は誰なのか?調べれば調べるほどおかしいことばかり出てきました。

被告:援助案件探しの東電設計(株)、その受け付け窓口の国際協力事業団(JICA)、それにお金を出す海外経済協力基金、後の国際協力銀行(JBIC)、そしてわたしたちの国。この国の住民で「援助」という名の人殺しがあるとしたら、「援助交際」と相場は決まっていたのですが…。

インドネシア政府官僚の間にはびこるオリエンタルな慣習「ムンブイズム」は、日本のお家芸。政府官僚として在任中の地位を利用し役得をむさぼるサマをいい、巨額の援助金は彼らの懐を温める絶好のお品書きだったので

時のスハルト政権を特徴づける「KKN」-Korupsi(汚職)、Kolusi(癒着)、Nepotisme(縁故主義)。あれえ〜、これはどこかで聞いた話じゃないでしょうか?ご用命の節には、写真を持って伺います。